

5月上旬の北軽井沢。浅間山麓のまだ芽吹ききらない林床で、一羽のクロツグミが浅間石（浅間山由来の火山岩）の上にしばらく静かに立ち止まっていました。黒褐色の頭部と胸、白地に黒い斑点のある腹、黄色いくちばしと脚という鮮やかな対比は、火山岩の灰色によく映えます。

クロツグミ（黒鶇）、学名 *Turdus cardis* は、スズメ目ツグミ科に属する日本を代表する夏鳥の一つです。春になると東南アジア方面から日本へ渡来し、本州から北海道の山地や丘陵の明るい森林で繁殖します。秋には再び南方へ渡ります。

雄はこの写真のように黒味が強く、雌は全体に褐色で斑もやや不明瞭なため、雌雄の識別は比較的容易です。さえずりは非常に美しく、澄んだ笛声で「キョロン、キョロン、ツイーリー」などと響き、春の森を代表する声の一つです。一方、地鳴きは「チョッ、チョッ」と警戒的です。地上で落ち葉を跳ねのけながら昆虫、ミミズ、木の実などを探し、林床生活の時間が長いのも特徴です。営巣は低木や斜面の根元など比較的低い位置に椀形の巣を作り、雌が主に抱卵します。浅間石の上で周囲をうかがうこの姿も、採餌の合間の警戒行動なのでしょう。

火山の大地に育まれた北軽井沢の森で、その澄んだ声と端正な姿は、高原の春の訪れを告げる存在です。

(2026年5月上旬／北軽井沢)

